

昭和大学 ふるさと会

北海道

東北連合

茨城県

群馬県

創刊号
2019 March

新潟県

長野県

東海連合

近畿連合

広島県

福岡県

鹿児島県

いよいよ『昭和大学ふるさと会 会報誌』が始まります。ご期待ください！

昭和大学

みんながみんなと知り合える

昭和大学ふるさと会 入会のご案内

趣旨・目的

学内の全職員、全学生を構成員とした県人会組織を設置し、同郷人としての親睦を深める活動を行う。また、この学内組織と本学の地域同窓生、父兄会支部と情報交換等の交流を図り、地域間連携の強化を推進することによって、本学学生の就職情報の提供や、地域入学者の増加につなげ地域の活性化を図る。

現在の活動11地域

- ①北海道 ②東北連合(青森県、宮城県、秋田県、岩手県) ③茨城県 ④群馬県
⑤新潟県 ⑥長野県 ⑦東海連合(岐阜県、愛知県、三重県)
⑧近畿連合(京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県) ⑨広島県 ⑩福岡県 ⑪鹿児島県
※指定地域外の方も、ご入会をお待ちしています。

入会申込の方法

-  Web 入会申込WEBフォームから申込み
-  メール 入会申込フォームを昭和大学ふるさと会へメールで申込み
furusato@ofc.showa-u.ac.jp
-  書面 入会申込フォームを出力して昭和大学ふるさと会本部窓口へ申込み
昭和大学 1号館 1階 総務部企画課

- ・入会申込みは、随時受け付けています。
- ・入会希望地域は、出身地のほか、思い出のある地域など複数登録が可能です。

昭和大学ふるさと会事務窓口

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
Tel 03-3784-8118
Mail furusato@ofc.showa-u.ac.jp
URL http://www.showa-u.ac.jp/pick_up/furusato/index.html



地域連携・地域活性化に 挑戦する昭和大学

学校法人昭和大学理事長 小口勝司

昭和大学は、「至誠一貫」を体現できる医療人の育成に邁進しております。学内の全職員、全学生を構成員とした県人会組織「ふるさと会」を設置しました。地域の同窓生、父兄会支部等の組織との連携が強化され、これまで以上にこの活動が広がり、地域連携・地域活性化への取り組みのある大学となるよう挑戦したいと思っております。

皆さまにおかれましては交流会などに積極的に参加していただき、その活動を盛り上げていただくことを願っております。



昭和大学ふるさと会 会報誌創刊にあたって

昭和大学学長
昭和大学ふるさと会会長 小出良平

平成30年4月より発足しました昭和大学ふるさと会は、今年4月で1周年を迎えますが、本会の活動等を学内外の関係者に更に周知するために「昭和大学ふるさと会会報誌」を創刊することになりました。

昨今の大学を取り巻く状況は、依然として全学を挙げてあらゆる機会・資源を用いて人の和を熟成していくことが求められております。

昭和大学ふるさと会は各地域から東京へ、そして各地域へと貴重な人材を還元すべく発足されました。地域の同窓会や父兄会等と交流しながら、入学者の学生生活を支援し、地域からの受験者の開拓や卒業

生の就職支援等を促進し、地域の活性化を図ることであります。地域の活性化が、ひいては昭和大学の更なる発展に寄与するであろうと期待しております。また、昭和大学が輩出した各地域の卒業生との交流を経て、地域との連携を更に深めていただきたいと考えております。

現在は11の地域において活動しておりますが、今後はより多くの地域へと活動を拡大していく予定です。どうぞ積極的にご参加ください。

ふるさと会で 自分の将来を考える

薬学部5年生
富田有紀さん

鹿児島県出身の私は、鹿児島ふるさと会に参加させていただいています。ふるさと会では同じ出身地の皆さんと郷土料理をいただきながら、和やかで楽しい時間を過ごすことができました。

学生の私にとってふるさと会は、同郷の皆さんと出会う場であり、その交流を通して自分の将来を考えるきっかけとなる場であるように感じました。

人間関係が希薄になりがちな時代だからこそ、同じ医療に携わる幅広い年齢層の皆さんとつながっていきけるふるさと会は、とても貴重な経験の場になると思いました。



広げよう！深めよう！みんなとみんなの絆！

『昭和大学ふるさと会』の未来に向けて！！



ふるさと会に参加しよう！

鹿児島編

今給黎病院での座談会(右から、門松教授、医学部5年・松根さん、今給黎理事長、山本准教授、桑迫教授、田中)。

今年2月9日、昭和大学同窓会鹿児島県支部会が開催されました。また翌10日には、有志が昭和大学医学部同窓会鹿児島県支部長の今給黎尚典理事長を訪問、ふるさと会への思いを交歓しました。本創刊号では、それぞれの思いを印象記としてまとめてご紹介します。

今給黎総合病院 理事長 今給黎尚典 先生(鹿児島市)

鹿児島と宮崎の県人会は、三州人会として昭和30年代から東京で開催されています。それゆえ一体感が強いのも鹿児島県支部会の特徴です。2月9日、鹿児島県支部会が開催され、細山田元学長をはじめ、東京在住の鹿児島出身者10人も加わり、夜遅くまで懇親会が続きました。翌10日も、有志の皆さんが今給黎総合病院で旧交を温め、大学とふるさと会の連携で、多くの学生の志望を募ってほしいと、思いをひとつにしました。

ふるさと会との連携で多くの志望学生を募りたい！

ふるさと会の発展に欠かせない地方からの母校愛。



昭和大学医学部形成外科学講座 主任教授 門松香一 先生(日置市出身)

この座談会で感じたのは、支部の先生方が昭和大学を深く愛してくださっていること、同時に支部の発展も真剣に考えておられることでした。鹿児島ふるさと会の実施責任者として、このような地方の心温まるご意見を確認することができて感謝します。座談会後は会場に使わせていただいた今給黎総合病院の院長室で雄大な桜島を眺めながら、名物のうな重を「ちそう」になり、改めて昭和大学の絆の強さをかみしめました。

藤が丘病院麻酔科 教授 桑迫勇登 先生(曾於市財部町出身)

今回、初めて鹿児島県支部会に出席しました。きっかけは、細山田元学長、門松教授、山本准教授、私の4名でふるさと会の打合せを行った際に、「里帰りを兼ねて鹿児島県支部会に行こう」との一言でした。学内のふるさと会は鹿児島県人会を母体に活動しています。一方、鹿児島県支部会では大学を懐かしむ方が多く、ふるさと会で大学の魅力を発信すれば、有意義な存在になると思います。

ふるさと会で大学の魅力をもっと伝えたい！



昭和大学病院 呼吸器外科 准教授 山本滋 先生(鹿児島市出身)

毎年2月に鹿児島市内のホテルで、昭和大学医・歯学部同窓会鹿児島県支部会が開催されます。昨年は、講演にお招きいただき、大歓迎されました。今回、ふるさと会で鹿児島県支部会へ参加の話が盛り上がり、有志で参加しました。

卒業後の空白時間が瞬時に埋まる支部会に行ってみよう！



旗の台以来数10年ぶりの再会もありましたが、瞬時に昔にタイムスリップ。諸先輩の皆さまの何事にも真摯に立ち向かってこられた素敵な笑顔に接し感銘し、話の尽きない一日でした。

昭和大学医学部5年 松根佑典 さん(鹿児島市出身)

とても古くから交流が続いている鹿児島県支部会では、思いがけない共通の知り合いもたくさんおられ、昭和大学と鹿児島県という土地に強い絆を感じました。

面会した今給黎総合病院の今給黎理事長からは、地元医師会や大学と信頼関係を築きながら地域医療に貢献してこられた苦勞を直接伺うことができ、入学前は知る由もなかった鹿児島の医療事情を学ぶことができた有意義な体験でした。

鹿児島と昭和大学の深い絆を感じました！



広島編

ふるさと会発展の象徴、サイン入りボール！(昭和大学広島ふるさと会)

12月18日に開催された広島ふるさと会に、同窓会広島県支部長の桑原正雄先生にお越しいただき楽しいひと時を過ごしました。同先生には広島カープ緒方監督との交遊話をご披露いただき、監督のサイン入りボールを会の発展にとご寄贈くださいました。

また地元へのUターン・Jターンサポートのお申し出もいただき、郷土の先輩として心強い限りです。



熊本編

Uターン医療人との出会いに感激！(昭和大学熊本県同窓会支部会)

昨年、昭和大学医学部を卒業した中島仁美さんがふるさと会の熊本でUターン研修、初めての同窓会支部会参加です。荒木幹太支部長と大学の指導担任だったふるさと会本部統括主管の田中一正特任教授とともに、旧交を懐かしみました。

全国のふるさと会でも、このようなUターン医療人を1人でも多く増やすことが、ふるさと会の役割のひとつです。



左から、荒木幹太支部長、中島仁美医師、田中一正特任教授。

学生と職員が垣根を越えて一体化する、新たな昭和大学連携を目指していきます。



昭和大学ふるさと会 本部統括主管 田中一正

昭和大学の県人意識はもともと強く、それがふるさと会にも継承され、昭和大学人を結びつけています。ふるさと会を通じて、学生時代から出身地の関係者と交流することは貴重な経験となり、協働できる仲間意識の醸成になると思います。発足1年を迎えた昭和大学ふるさと会では、学生と職員の垣根を越える新たな昭和大学連携の実現に努力してまいります。どうかご支援のほどよろしく願い申し上げます。

